

## 勉強会の皆さんへー2

藤村公三郎先生の熱い文章をいささか興奮しながら読ませていただきました。先生のご指摘は授業というもののダイナミズムについてまことに等を得て素晴らしいと思います。もちろん先生のこの文章にはコンピューターを介してのコミュニケーションの限界についても言及されており、考えなければならないことが満載されています。今日はこれを基にいくつかの思いつくことを書いてみたいと思います。

長期の休校措置の状況下で、「一人を生きる」という大人にとっても難しい人生の一面を思い知らされている児童生徒たちの心と生活を気遣う先生方の教育愛の発露として、「人と共に生きる」「人に支えられて生きている」という人生のもう一面を実感できるように多くの学校ではオンライン通信がなされています。

ただ、マスコミ等では、単に学習の遅れを取り戻すものと受け止められている場合が多いように思われますが、教育を単に教科の知識を伝達するものとしか考えられないマスコミ人の薄っぺらな学校観・教育観を今さら言っても仕方がないのでこのことはこれくらいにしておきましょう。

先生方は、直接子供たちと顔を会わせることのできない中で、もどかしさを感じておられると思います。

そんな中で、緊急措置として、コンピューターを一つのツールとして、児童生徒との心のつながりを図ろうとしておられるものと、私は理解しております。やがてはフェイス ツウ フェイス の平常に戻ると信じておられると思います。

ところが、今、一部に オンライン授業の導入を主張する人たちがいます。緊急避難的にやっていることを常態にしようというわけです。

文部科学省が全員にタブレットを持たせるといっていることと相まって、混乱を生じさせかねない状態にあります。

文科省が今やっていることはデジタル教材を作ることです。つまり「教材」と「教具」としてのコンピューターの活用です。「教材」や「教具」としてコンピューターを使う限り、今よりも授業を豊かにする可能性は広がると思います。

しかしこれはオンライン授業とは全く異なるということを明確にしておかなければならないと、私は考えています。

皆さんの意見を聞かせてください。